

平成 23 年 11 月 1 日

一般財団法人日本塗料検査協会

性能評価業務約款

(総則)

- 第 1 条 建築基準法施行令(以下、「令」という。)第 20 条の 7 第 2 項から第 4 項(化学物質の発散に対する衛生上の措置に関する技術的基準)の規定による認定のための審査に必要な評価(以下、「性能評価」という。)の申請者(以下、「甲」という。)及び建築基準法(以下、「法」という。)法第 7 条の 56 による指定性能評価機関である一般財団法人日本塗料検査協会(以下、「乙」という。)は、法令及びこれに基づく命令を遵守し、この約款(申請書及び承諾書を含む。)及び「一般財団法人日本塗料検査協会性能評価業務規程(以下、「規程」という。)に定められた事項を内容とする契約(以下、「この契約」という。)を履行する。
- 2 この契約は、甲が乙に申請書を提出し、乙が甲に承諾書を交付したとき、承諾書を発行した日をもって、締結がなされたものとする。ただし、乙が申請書に承諾印を押印し、その写しを甲に交付した場合は、乙の承諾印が押印された申請書の写しをもって承諾書に代えることができる。この場合の契約締結日は、乙が承諾印を押印した日とする。
- 3 乙は、善良な管理者の注意をもって、承諾書又は乙の承諾印が押印された申請書に定められた業務(以下、「業務」という。)を行い、甲に対し、性能評価書又は性能評価をしない旨の通知書を次条に規定する日(以下、「業務期日」という。)までに交付しなければならない。
- 4 乙は、甲から業務の方法について説明を求められたときは、速やかにこれに応じなければならない。
- 5 甲は、乙に対し、建築基準法施行規則(以下、「規則」という。)第 11 条の 2 の 3 の規定に基づき算出され、承諾書又は承諾印が押印された申請書に定められた額の手数料を第 3 条に規定する日(以下、「支払期日」という。)までに支払わなければならない。
- 6 甲は、乙から提出図書について説明を求められたときは、これに応じなければならない。
- 7 乙は、甲から提出された資料のみでは業務を行うことが困難であると認め、当該業務を行うために必要な追加資料の提出を請求した場合、甲は甲乙合意のうえ定めた期日までに乙に提出しなければならない。
- 8 乙が審議中に規程に基づく業務方法書に示された基準に照らして提出図書に関する是正事項を指摘した場合、甲は甲乙合意のうえ定められた期日までに当該部分の修正その他必要な措置をとらなければならない。
- 9 この契約における期間の定めについては、民法(明治 29 年法律第 89 号)の定めるところによる。

(業務期日)

第2条 乙の業務期日は、第1条第2項の契約締結の日から6ヶ月を経過する日とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、甲乙合意した場合は、契約締結時に別途業務期日を定めることができる。
- 3 乙は、天災地変、戦争、暴動、内乱、法令の制定・改廃、輸送機関の事故その他不可抗力によって、前2項に定める業務期日までに第1条3項の交付をすることができない場合は、甲に対してその理由を明示のうえ、必要と認められる業務期日の延期を申請することができる。
- 4 前項に規定する場合のほか、甲がその理由を明示のうえ、乙に書面をもって業務期日の延長を申し出た場合で、当該理由が正当であると乙が認めた場合は、乙は業務期日を延期することができる。
- 5 前2項の場合、乙が業務期日を延期したことによって甲に生じた損害については、乙はその賠償の責に任じないものとする。

(支払期日)

第3条 甲の支払期日は、請求の日から1ヶ月を経過する日とする。

(審査中の申請内容の変更)

第4条 甲は、乙が第1条第3項の交付をするまでに甲の都合により申請内容を変更する場合は、その旨を直ちに乙に通知し、甲乙合意のうえ定めた期日までに乙に変更部分の提出図書を提出しなければならない。

- 2 前項の申請内容の変更が、大幅なものと乙が認める場合にあっては、甲は当初の申請内容にかかわる業務の申請を取り下げ、別件として改めて乙に当該業務を申請しなければならない。
- 3 前項の申請の取り下げがなされた場合は、第8条第3項の契約解除があったものとする。

(乙の債務不履行責任)

第5条 甲は、乙がこの契約に違反した場合において、その効果がこの契約に定められているもののほか、甲に損害が生じたときは、乙に対してその賠償を請求することができる。ただし、乙がその責に帰することができない事由によることを証明したときは、この限りではない。

(甲の債務不履行責任)

第6条 乙は、甲がこの契約に違反した場合において、その効果がこの契約に定められているもののほか、乙に損害が生じたときは、甲に対してその賠償を請求することができる。ただし、甲がその責に帰することができない事由によることを証明したときは、この限りではない。

(性能評価の判断の誤りに対する乙の責任)

第7条 甲は、第5条の定めに係わらず、第1条第3項の通知を受けた後に性能評価の判定に誤りが発見された場合、乙に対して追完及び損害賠償を請求することができる。ただし、その誤りが次の各号の一に該当することに基づくものであることを乙が証明したときは、この限りでない。

- (1) 甲の提出図書等にあった過誤の記載、虚偽の記載、その他甲の責に帰すべき事由。
- (2) 業務を行った時点の技術水準からして予見が困難であったこと。
- (3) 前号のほか、乙の責に帰することができない事由。

2 前項の請求は、第1条第3項の交付の日から5年以内に行わなければならない。

3 甲は、第1条第3項の交付の際に性能評価の判定に誤りがあることを知ったときは、第1項の規定にかかわらず、その旨を第1条第3項の通知の日から6ヶ月以内に乙に通知しなければ、追完及び損害賠償を請求することはできない。ただし、乙がその誤りがあることを知っていたときは、この限りではない。

(甲の解除権)

第8条 甲は、次の各号の一に該当するときは、その理由を明示のうえ、乙に書面をもって通知してこの契約を解除することができる。

- (1) 乙がその責に帰すべき事由により、第2条に定める業務期日までに第1条第3項の交付をしないとき。
 - (2) 乙がその責に帰すべき事由によりこの契約に違反し、甲が相当期間を定めて催告してもその違反が是正されないとき。
 - (3) 前各号のほか、乙の責に帰すべき事由により、この契約を維持することが相当でない認められるとき。
- 2 甲は、乙が行った性能評価試験に不合格になったときは、乙に書面をもって申請を取り下げる旨の通知をすることで、その契約を解除することができる。
 - 3 前2項に規定する場合のほか、甲は乙が第1条第3項の交付をするまでの間、いつでも乙に書面をもって申請を取り下げる旨の通知をすることでこの契約を解除することができる。
 - 4 第1項の契約解除の場合、甲は手数料が既に支払われているときは、これの返還を乙に請求することができる。
 - 5 第1項の契約解除の場合、前項に定めるほか、甲は損害を受けているときは、その賠償額を乙に請求することができる。
 - 6 第2項の契約解除の場合、手数料が既に支払われているときは、甲は乙に対し、手数料から当該試験等に要した費用を差し引いた額の返還を請求することができる。また当該手数料が未だ支払われていないときは、乙は甲に対し、当該試験等に要した費用の支払い請求をすることができる。

- 7 第3項の契約解除の場合、手数料が既に支払われているときは、乙はこれを甲に返還せず、また当該手数料が未だ支払われていないときは、これの支払を甲に請求することができる。
- 8 第2項及び第3項の契約解除の場合、前2項に定めるほか、乙は、損害を受けているときはその賠償を甲に請求することができる。

(乙の解除権)

第9条 乙は、次の各号の一に該当するときは、その理由を明示のうえ、甲に書面をもって通知してこの契約を解除することができる。

- (1) 甲がこの契約に従って支払うべき手数料の支払いを遅延したとき。
 - (2) 甲が第1条第6項から第8項まで及び第4条第1項に定める責務を怠ったとき、その他甲の責に帰すべき事由により第2条に定める業務期日までに第1条第3項の交付をすることができなとき。
 - (3) 甲が第4条第2項の規定に基づき申請を取り下げず、乙が相当期間を定めても催告しても申請を取り下げないとき。
 - (4) 甲がその責に帰すべき事由によりこの契約に違反し、乙が相当期間を定めて催告してもその違反が是正されないとき。
 - (5) 前各号のほか、甲の責に帰すべき事由により、この契約を維持することが相当でないと認められたとき。
- 2 前項の契約解除の場合、乙は手数料が既に支払われているときはこれを返還せず、また当該手数料が未だ支払われていないときは、これの支払を甲に請求することができる。
 - 3 第1項の契約解除の場合、前項に定めるほか、乙は、損害を受けているときはその賠償を甲に請求することができる。

(秘密保持)

第10条 乙は、この契約に定める業務に関して知り得た秘密を漏らし、又は自己の利益のために使用してはならない。

(別途協議)

第11条 この契約に定めのない事項及びこの契約の解釈に疑義を生じた事項については、甲乙信義誠実の原則に則り協議のうえ定めるものとする。

平成23年11月1日 改正